スカーレット・オハラが受け継いだ一族の血について

小野寺　初　季

炎のような激しい気性を持つ、美しい女性、スカーレット・オハラ。映画ではほとんど触れられていない、彼女の祖先たちにこそ、彼女の強さがあると考えました。

父、ジェラルド・オハラは、イギリス人の地代取立人を殺し、アメリカに亡命したアイルランド人である。オハラ一族は、アイルランドの自由と、自分たちの土地のために戦い、死んでいった。彼もまたアイルランド人らしく、土地こそ働く価値のあるもの、戦う価値のあるもの、そして死ぬ値のあるものだと言う。

一方母のエレンは、サヴァナの名家、ロビヤール出身である。慈悲深い貴婦人だが、彼女の祖先には、ナポレオンを失脚させた嵐にも負けず、ハイチのジャングルの中に王国を築いた者もいる。ロビヤール家の血は、どんな過酷な運命にも耐える力がある。

何不自由ない暮らしをしていた彼女が、戦争で財産を失い、頼る人もなく、呆けてしまった父と病気の妹２人、義妹メラニーと赤ん坊２人、そして４人の黒人を抱えて働く力があったのは、決して敗北を認めないオハラ家の血と、どんなことにも耐えしのぶロビヤールの血があったからではないか。不屈の闘志と土地への愛を持つ血があったからこそ、北軍の兵士を射殺できたし、父が一文なしから築いたタラ農園を守るため、かつての父のようにヤンキーに１人で立ち向かい、税金を払うために上の妹、スエレンの婚約者、フランク・ケネディを奪うことまでできたのではないか。かつて北軍の兵士らが大勢やって来た時、ジェラルドの肩には、アイルランドのため戦い、死して尚屈服しない先祖たちがついていて、彼をタラから去ることを許さなかったが、貧しい生活の中を戦うスカーレットにも、同じ魂がついていた。彼女は苦しい時いつも、最悪のものを最良のものにたたきなおした血族のことを考え、自らをふるい立たせている。そしてタラこそ運命であり、戦場と考えた。

ただ気の強いだけでは、１人の女の力で生きていける世の中ではないはずだ。彼女は祖先たちと同じ血が自分の血管にも流れていると考え、「明日考えよう」という魔法のような言葉を繰り返しながら、自分の望む物を手に入れ、家族の誰１人として、もう決して飢えさせないという誓いを守り抜くために、どんな苦難も恐れず戦い続けた女性が、スカーレット・オハラだと思い、その体に流れる血の中身について注目してみました。

（指導教員　中村　敦志）